# 2030年代の 地上重力波検出器 とKAGRAの戦略

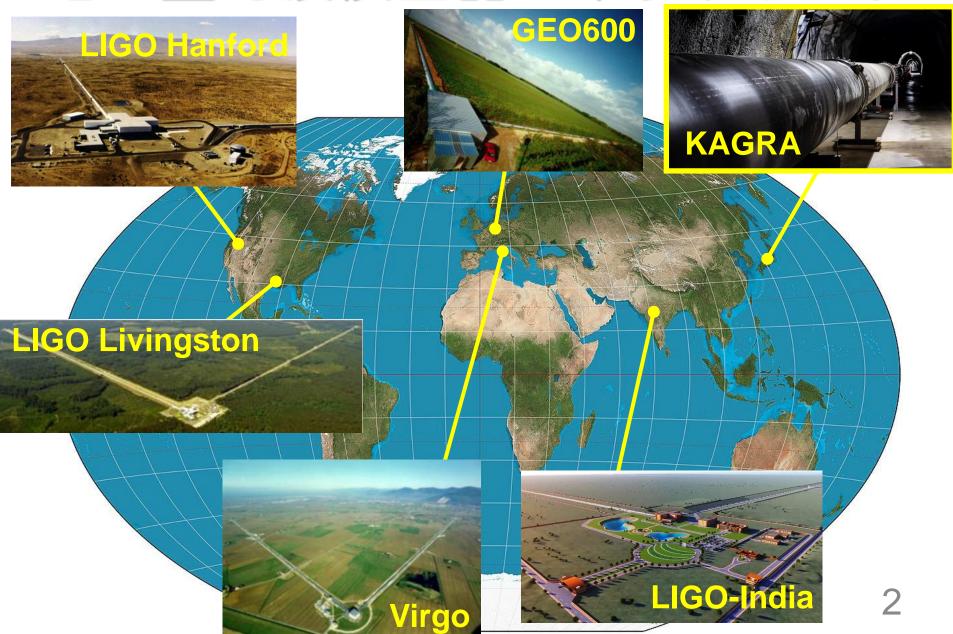
KAERA

#### 道村唯太

東京大学 大学院理学系研究科附属 ビッグバン宇宙国際研究センター michimura@resceu.s.u-tokyo.ac.jp

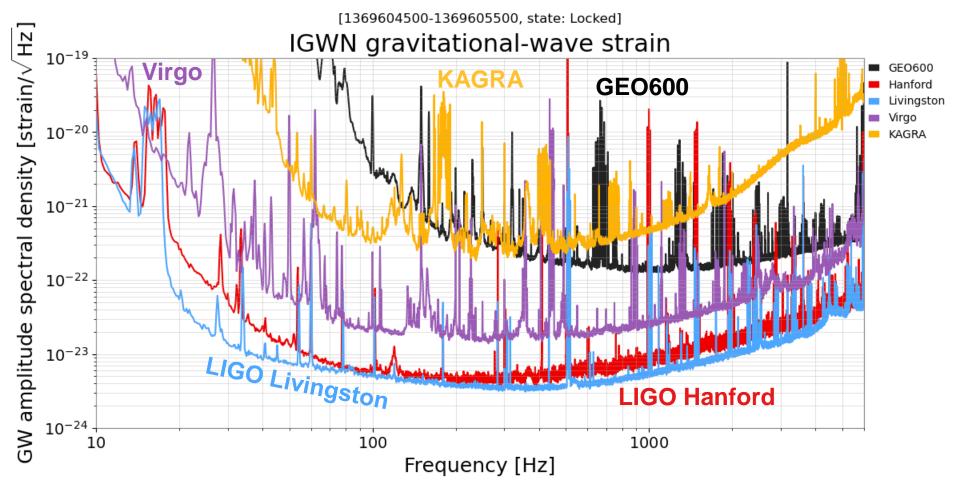


# 地上重力波検出器のネットワーク



# 現状(2年前;O4開始時)の感度の比較

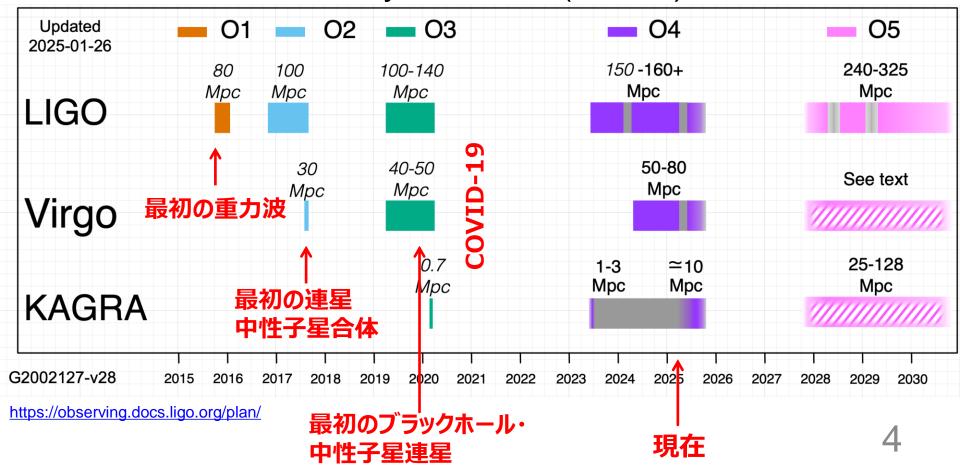
・ 下に行くほど感度が良い(2倍良いと、8倍の観測数)



NOTE: Not the latest. Taken when 5 detectors are locked simultaneously on June 1, 2023

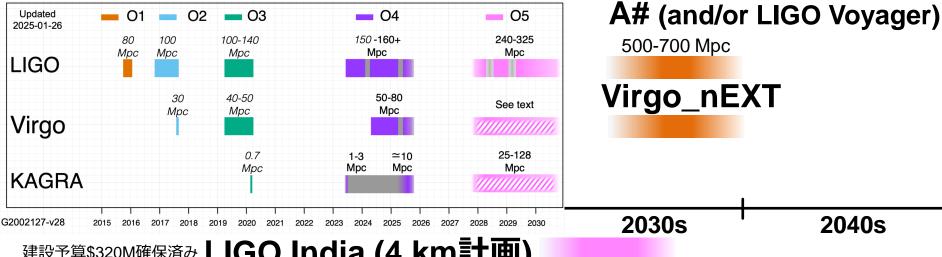
# LIGO-Virgo-KAGRAの共同観測計画

- 複数台による観測が重要
- より連携を強化したInternational Gravitational Wave Observatory Network (IGWN)構想も



### 各国の将来計画

- LIGO/VirgoはO5、O6以降に向けアップグレード
- 次世代計画も進行中、全宇宙の恒星質量連星観測



建設予算\$320M確保済み LIGO India (4 km計画)

**Cosmic Explorer** (米国、20-40 km計画)

**Einstein Telescope** (欧州、10-15 km計画)

> ※2030年代にはLISA、 Taiii、TianQin、DECIGOも

z~7 for BNS z>10 for BBH

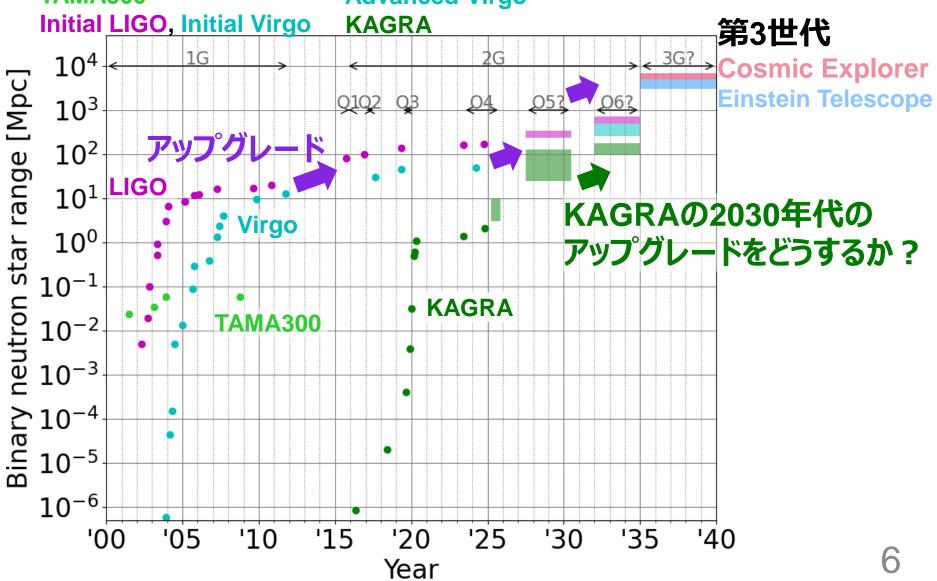
#### 第2世代

#### 感度進展の歴史

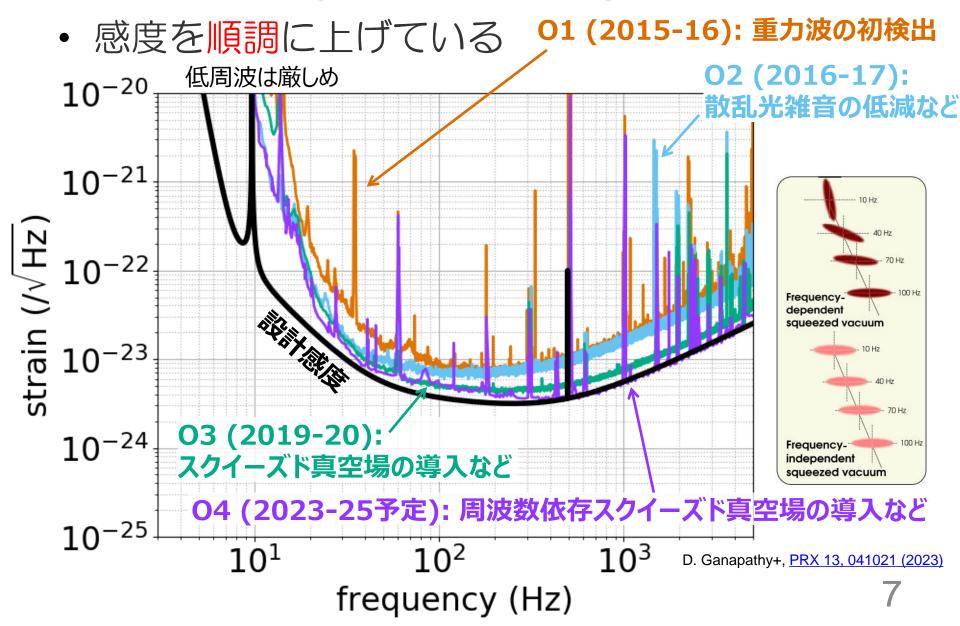


**TAMA300** 

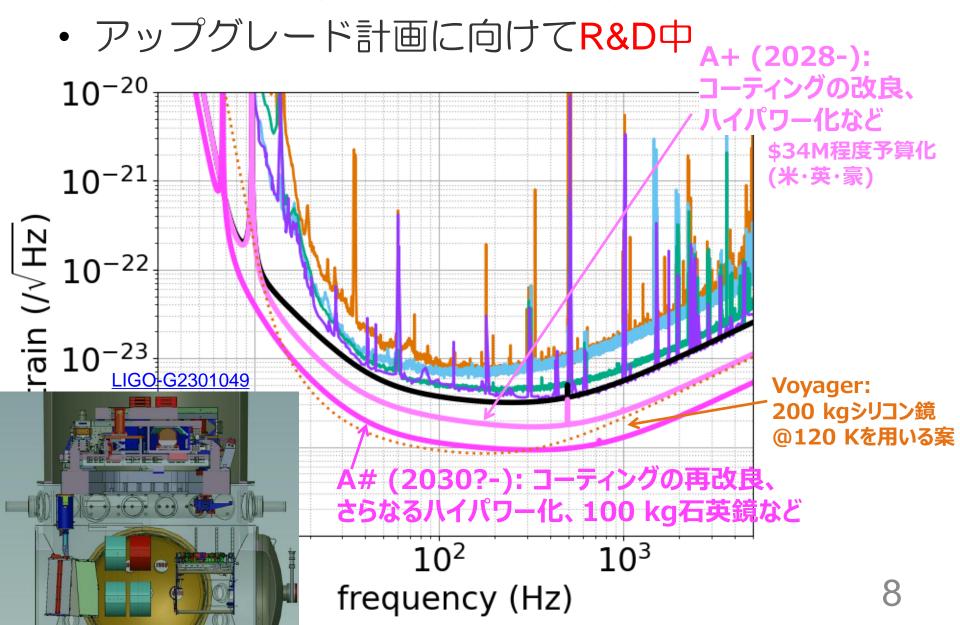
Advanced LIGO Advanced Virgo



# LIGO(米国, 4 km)の状況

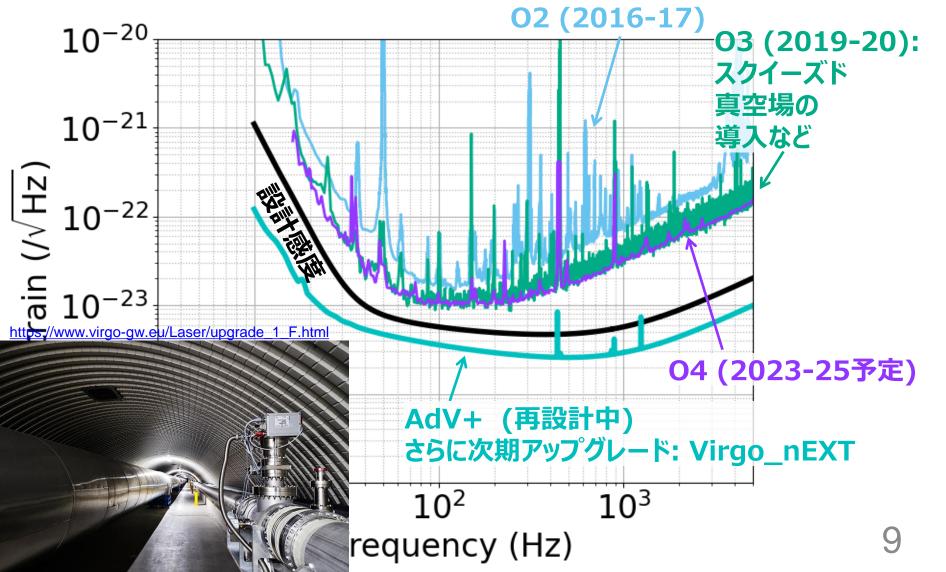


# LIGO(米国, 4 km)の状況



# Virgo(欧州, 3 km)の状況

• 次期観測とそれ以降の計画は練り直し中

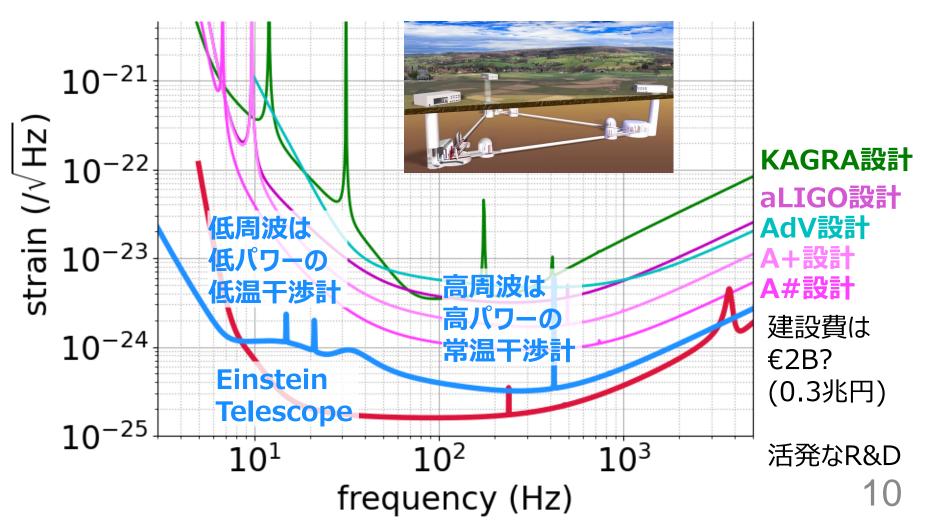


# Einstein Telescope(欧州, 10-15 km)

• 地下建設 (サルデーニャ島 or 白独蘭の国境)

10 kmの△か 15 kmの2L

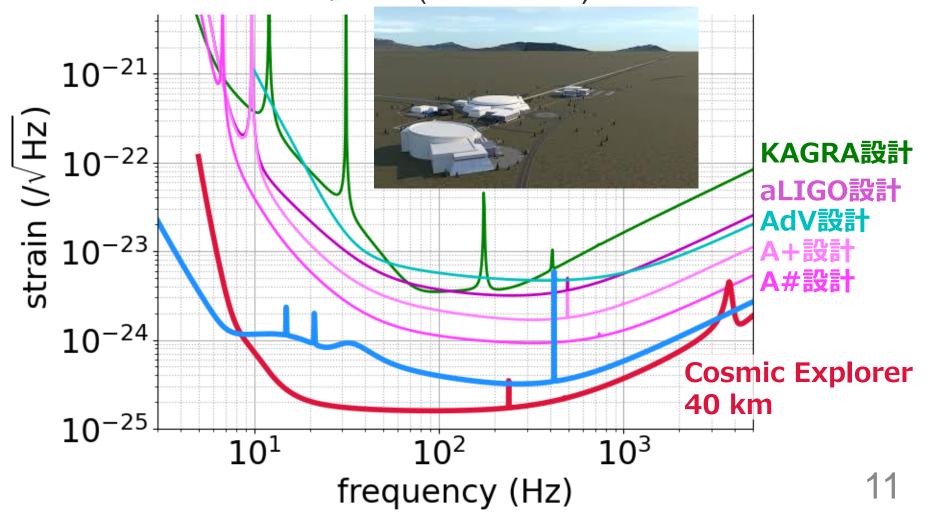
• 10 Kシリコン鏡の干渉計と常温石英鏡の干渉計の2種類



# Cosmic Explorer(米国, 20-40 km)

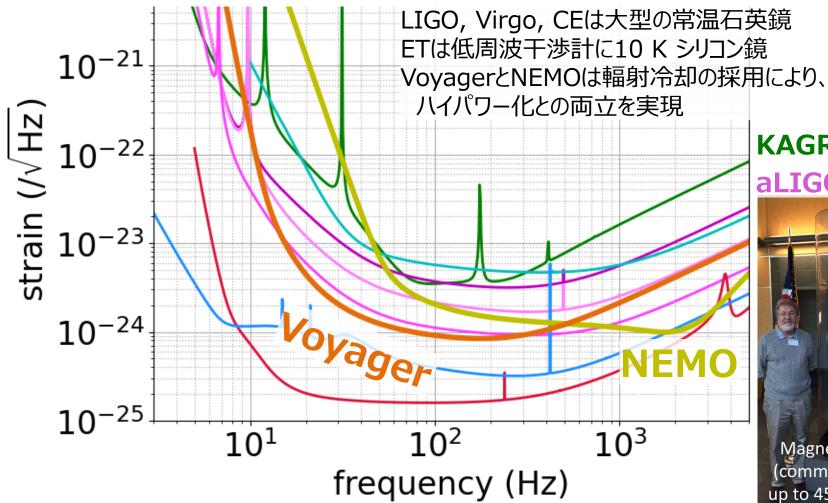
- A#の技術に基づき、10倍に大型化(常温)
- R&Dのための\$27M(約40億円)は予算化

20 kmと 40kmの2台 を想定



#### その他の動き

- LIGO Voyager: 120 K シリコン鏡(輻射冷却)
- NEMO: 豪州、4 km、120 K シリコン鏡



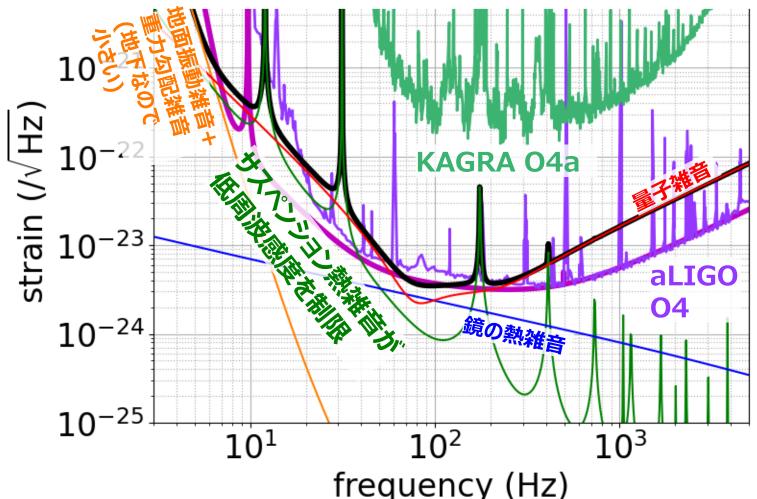
KAGRA設計

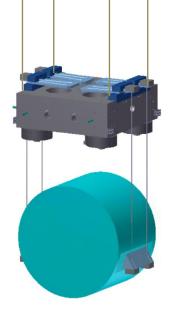
aLIGO設計



#### KAGRAの2030年代は?

- 伝導冷却+ハイパワーの両立が困難
- 低周波の感度は一般に上げにくい





LIGO, Virgo, CEは 大型の常温石英鏡

ETは低周波干渉計に 10 K シリコン鏡

NEMO, Voyagerは 熱伝導での冷却で 120 K シリコン鏡

KAGRAは 熱伝導での冷却で 22 K サファイア鏡

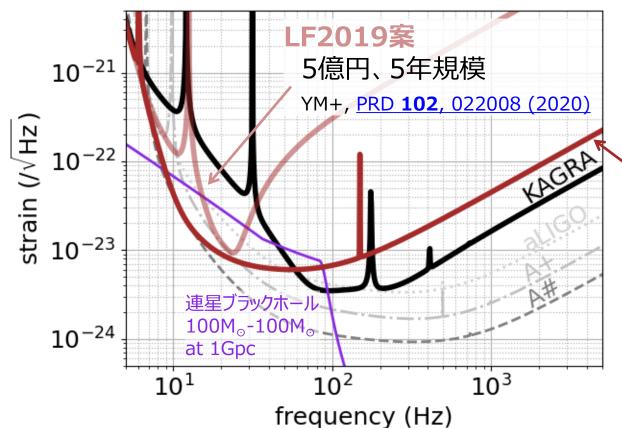
13

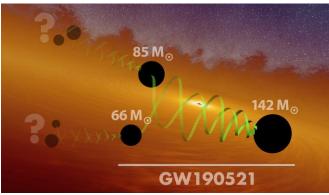
### 3種類のアップグレード案

• LF: 懸架線細く、低パワー化して低周波特化

• BB: 鏡の改良、周波数依存スクイージングで広帯域

• HF: 高パワー化して高周波特化





中間質量ブラックホールに迫る

#### LF2025案

さらにがんばる (それでもLIGO A#には勝てない)

JGW-T2416182

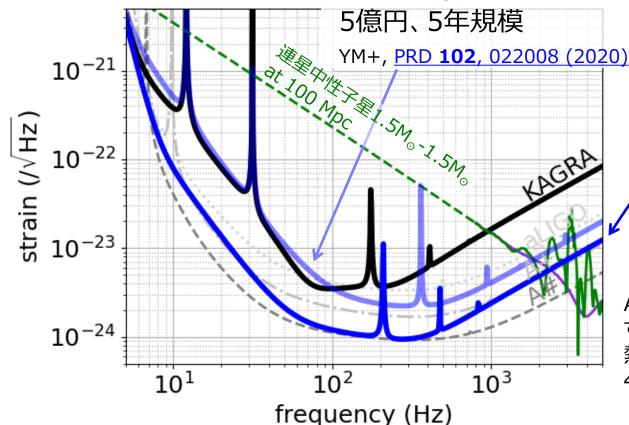
Einstein Telescopeの 低周波干渉計と 技術的親和性が高い

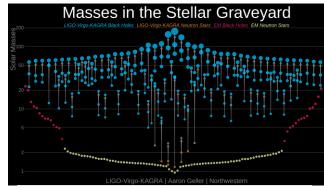
### 3種類のアップグレード案

• LF: 懸架線細く、低パワー化して低周波特化

• BB: 鏡の改良、周波数依存スクイージングで広帯域

 HF: 高パワー化して高周波特化 BB2019案





観測数の最大化を目指す

#### BB2025案

さらにがんばる (それでもLIGO A#には勝てない)

JGW-T2416182

A#などと同様のアップグレードを すると、低周波はサスペンション 熱雑音が厳しい

4 kmと3 kmの違いも大きい

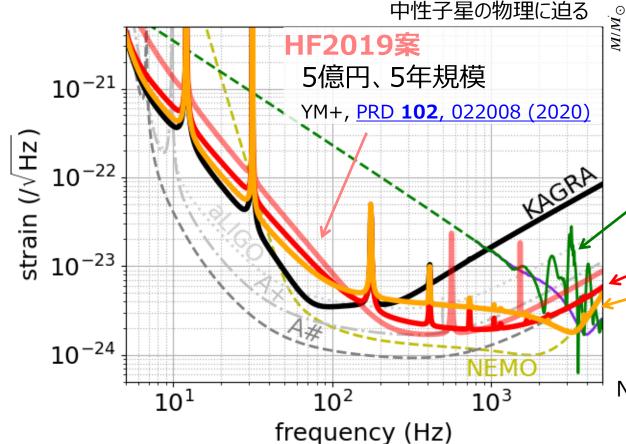
15

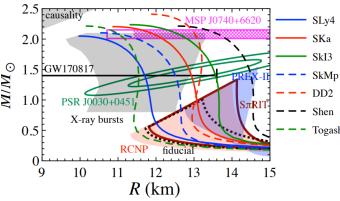
### 3種類のアップグレード案

• LF: 懸架線細く、低パワー化して低周波特化

• BB: 鏡の改良、周波数依存スクイージングで広帯域

• HF: 高パワー化して高周波特化





H. Sotani+, PTEP 2022, 041D01 (2022)

#### Post-merger signal

例: R. Harada+, PRD 110, 123005 (2024)

#### HF2025案

#### HF3k案

5億円、5年規模?

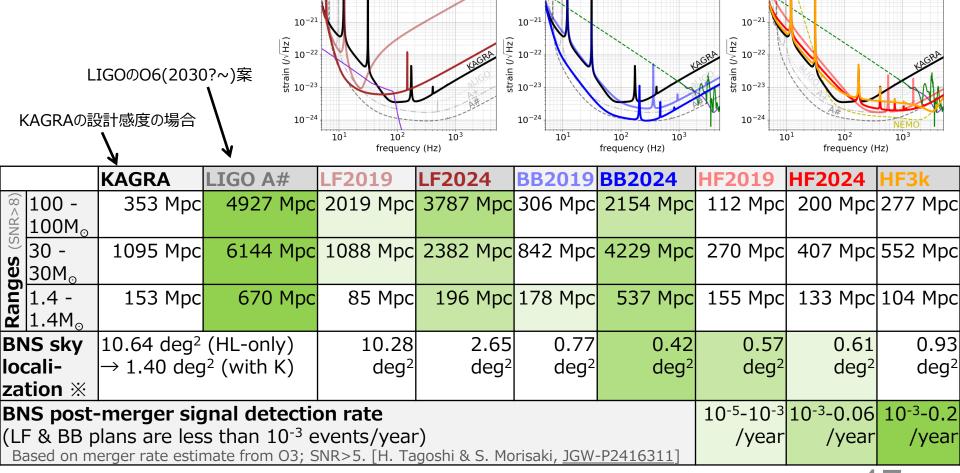
JGW-T2416182

NEMO(豪州)と親和性が高い

16

### それぞれのサイエンス比較

• 高周波の方がユニークなサイエンスが狙えそう 中性子星の状態方程式、波源の方向決定精度



 $<sup>\</sup>times$  Fisher analysis using IMRPhenomD waveform for GW170817-like binary at z=0.03 (127 Mpc) with two A#s and KAGRA. Median of 108 uniformly distributed sets of the source location and the polarization angle is shown.

# 様々なKAGRA関連R&D (一部紹介)

TAMA300施設を用いた周波数 依存スクイージング実証

> Y. Zhao+, PRL 124, 171101 (2020) N. Aritomi+, PRD 106, 102003 (2022)

サファイア鏡の複屈折の対策

K. Somiya, E. Hirose, YM, <u>PRD **100**</u>, 082005 (2019) YM+, PRD **109**, 022009 (2024)

H. Wang, ..., YM, PRD 110, 082007 (2024)

M. Eisenmann+, Optics Letters 49, 3404 (2024)

• 鏡のコーティング熱雑音

Y. Mori, Y. Nakayama+, PRD 109, 102008 (2024)

• 非ガウス型量子状態の利用検討

@国立清華大学

Yi-Ru Chen+, PRA 110, 023703 (2024)

• 量子制御技術の開発

例1: "Long SRC"効果の確認実験@宇宙研

例2: カー効果を使った光ばねの増強

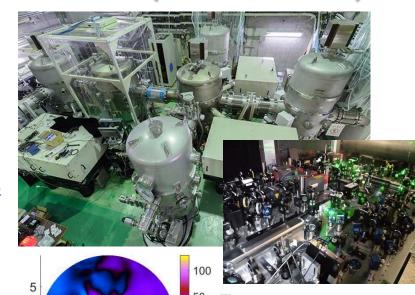
S. Otabe, ..., YM, K. Harada, K. Somiya, PRL 132, 143602 (2024)

2024年より、オーストラリアと交流事業ASPIREもスタート

https://aspire-gw.com/

[cm]

x [cm]



-50 -100



### まとめ

- LIGOとVirgoは確実に高感度化を進めている
- 次世代計画のEinstein TelescopeとCosmic Explorerも着実に 設計と研究開発が進んでいる
- その中で、KAGRAや日本の役割とは?
- ・ 中性子星物理(や超新星爆発)に特化し、KAGRAの特性を活かした高周波アップグレードを検討中
- 2025年4月23-24日に本郷で研究会をかります(3月21日締切)
  From Quarks to Neutron Stars:
  Insights from kHz gravitational waves
  <a href="https://indico2.riken.jp/event/5141/">https://indico2.riken.jp/event/5141/</a>







